

藤里町の人口減少やまちづくりに関する アンケート調査報告書

平成29年3月

藤 里 町

報告書作成：特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター

■ 目 次 ■

1.	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の方法	1
(3)	調査期間	1
(4)	配布、回収票数	1
(5)	補正係数 1	2
2.	回答者の姿	3
(1)	年齢と性別	3
(2)	結婚の有無	4
(3)	世帯構成	5
3.	藤里町への愛着度について	6
(1)	住み続けたいか	6
(2)	藤里町に住んでほしいか	8
(3)	愛着度	9
4.	まちづくりの現状の評価について	10
(1)	普段のおでかけ環境の満足度	10
(2)	人口減少に伴う人手不足	11
(3)	人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて	13
5.	情報の発信について	14
(1)	情報の入手方法	14
(2)	「とじこじ」の認知度、普及度	15
6.	まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想	16
	巻末資料 ～調査票～	24

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいる。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

(2) 調査の方法

藤里町に在住する町民 500 人を無作為で抽出し、郵送配布、郵送回収により実施した。

(3) 調査期間

平成 29 年 3 月 7 日配布 ～ 3 月 17 日回収締切

(4) 配布、回収票数

回収票数 294 票（回収率 59%）

表 年齢別の配布数・回答数と回収率

年齢	回答数	配布数	回収率
10代	6	20	30%
20代	21	64	33%
30代	30	65	46%
40代	44	75	59%
50代	43	73	59%
60代前半	21	76	79%
60代後半	39		
70代	50	77	65%
80歳以上	35	50	70%
計	289	500	58%

注：年齢未回答 5 票を除く

(5) 補正係数 1

過去のアンケート調査と結果を比較するにあたっては、配布数と回収率の差を補正係数を乗じることによって補正した後に、比較することとする。

表 補正係数 I (平成 27 年度の総合戦略アンケート調査)

年齢	回答数		構成率		補正係数 (H27/H28)
	H27	H28	H27	H28	
10代	26	6	4%	2%	2.17
20代	34	21	6%	7%	0.81
30代	50	30	9%	10%	0.83
40代	89	44	15%	15%	1.01
50代	111	43	19%	15%	1.29
60代前半	51	21	9%	7%	1.21
60代後半	53	39	9%	13%	0.68
70代	93	50	16%	17%	0.93
80代以上	71	35	12%	12%	1.01
総計	578	289	100%	100%	1.00

表 補正係数 II (平成 26 年度の地域公共交通網形成計画アンケート調査)

年齢	回答数		構成率		補正係数 (H27/H28)
	H26	H28	H26	H28	
10代	11	6	1%	2%	0.44
20代	34	21	3%	7%	0.39
30代	66	30	5%	10%	0.53
40代	91	44	8%	15%	0.50
50代	173	43	14%	15%	0.97
60代前半	154	21	13%	7%	1.76
60代後半	147	39	12%	13%	0.91
70代	290	50	24%	17%	1.40
80代以上	225	35	19%	12%	1.55
総計	1201	289	100%	100%	1.00

2. 回答者の姿

(1) 年齢と性別

年齢は、60代が21%、70代が17%と多く、65歳以上が全体の43%を占めて多い。
性別は、女性がやや多く53%を占める。

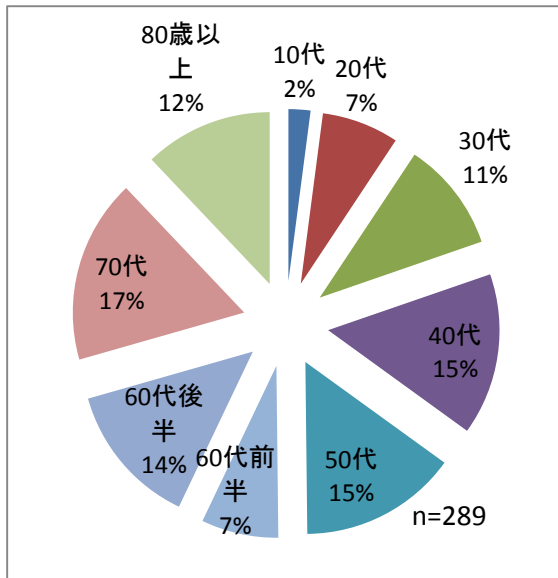


図 年齢

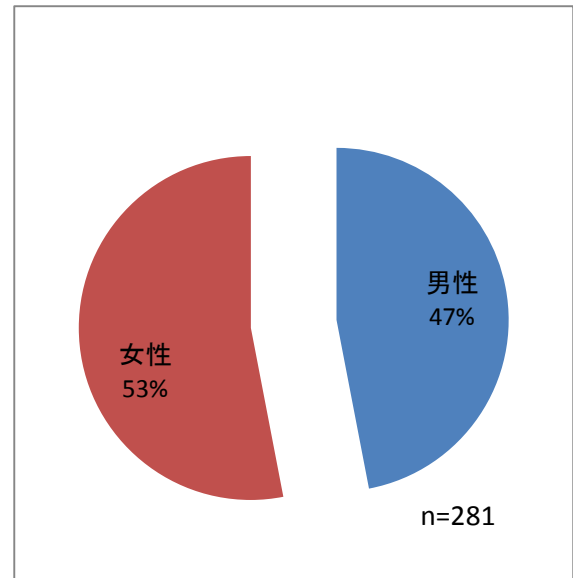


図 性別

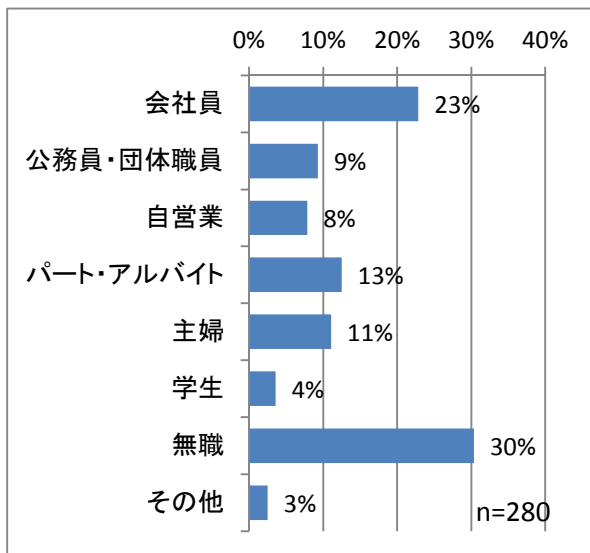


図 職業

(2) 結婚の有無

結婚をしている、もしくは結婚の経験がある割合は、全体では82%である。若い年齢ほど割合は低く、20代は29%、30代、40代は7割である。

男女別にみると、男性の方が結婚率は低く全体で76%に対して、女性は86%である。

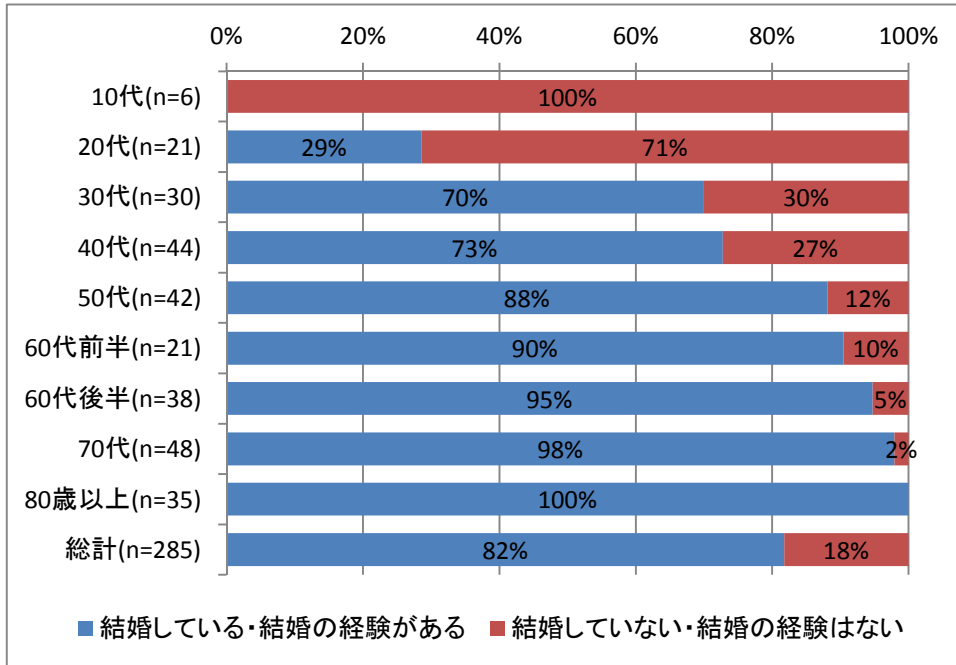


図 婚姻状況

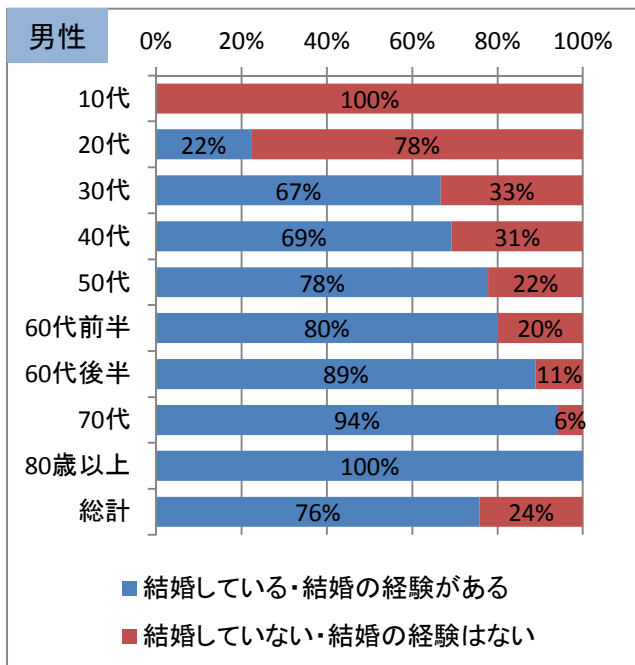


図 男性の婚姻状況

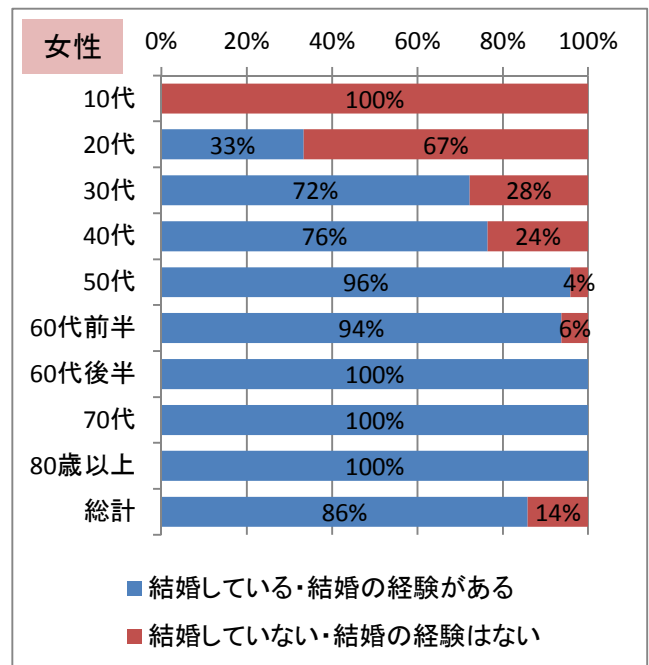


図 女性の婚姻状況

(3) 世帯構成

総計で見ると、2世代世帯が48%を占めて多い。単身世帯は、20代が21%、60代後半が11%を占める。

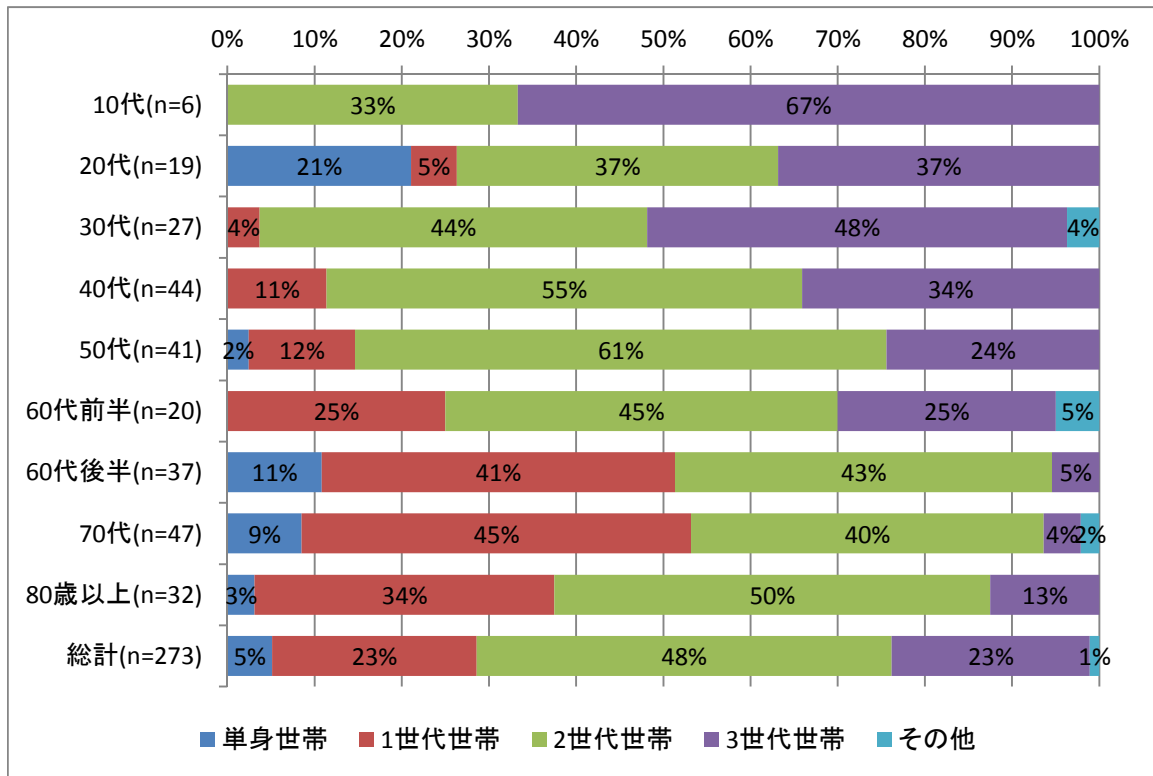


図 同居している世帯構成

3. 藤里町への愛着度について

(1) 住み続けたいか

「このまま町に住み続けたいと思う」割合は、平成 27 年度は 65%だったが、73%まで増えている。しかし、10 代や 20 代については、「進学や就職などで町外に移りたいと思う」割合が比較的高い。

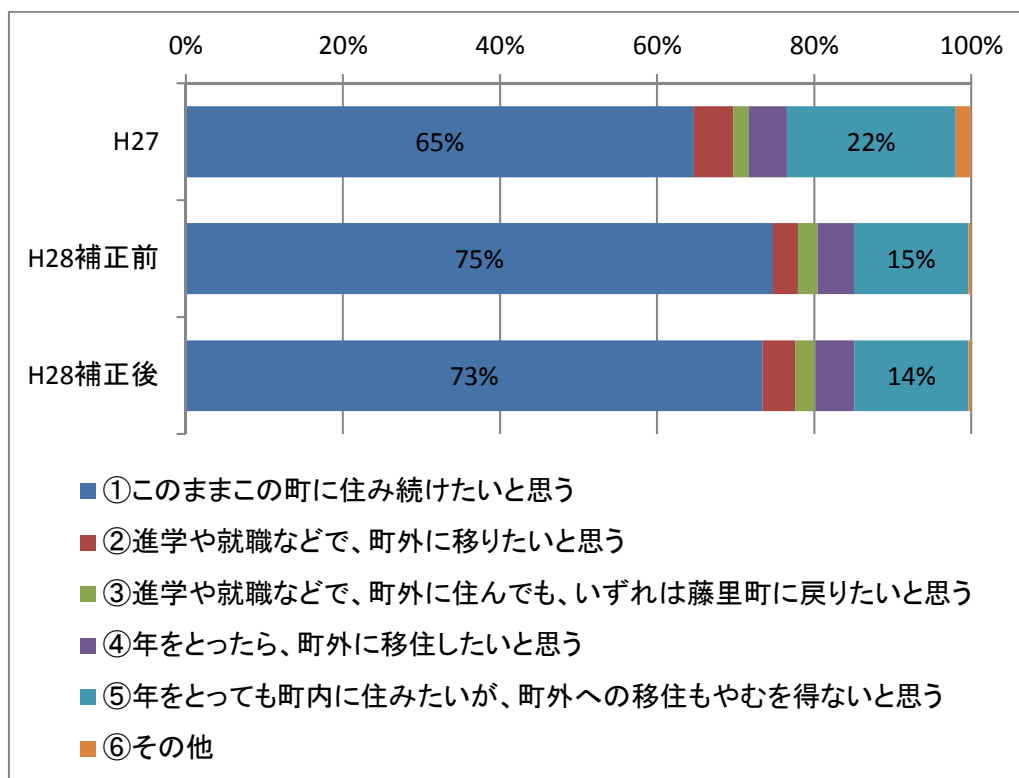


図 藤里町に住み続けたいか

*その他の内容

- ・ まだ分からない (10 代)
- ・ 生活が自立できなくなれば町外にいる息子の所に移りたい! (60 代後半)
- ・ 南国に行く (60 代後半)
- ・ 愛着はあまりないが、住むしかない (60 代後半)
- ・ 町がもっと便利になるなら、このまま住み続けたい。今の状態なら考える必要があるかなって思う。(30 台)
- ・ 一回町外に住んでみたい (20 代)
- ・ 移住したいと思うが、やむを得ないとも思う (50 代)
- ・ こだわりはないですが、きっとこのままでしょう。(40 代)
- ・ 不便だから (50 代)
- ・ 町内に住みたい (70 代)
- ・ 特にこだわりはない。(40 代)
- ・ 何とも言えない (30 代)

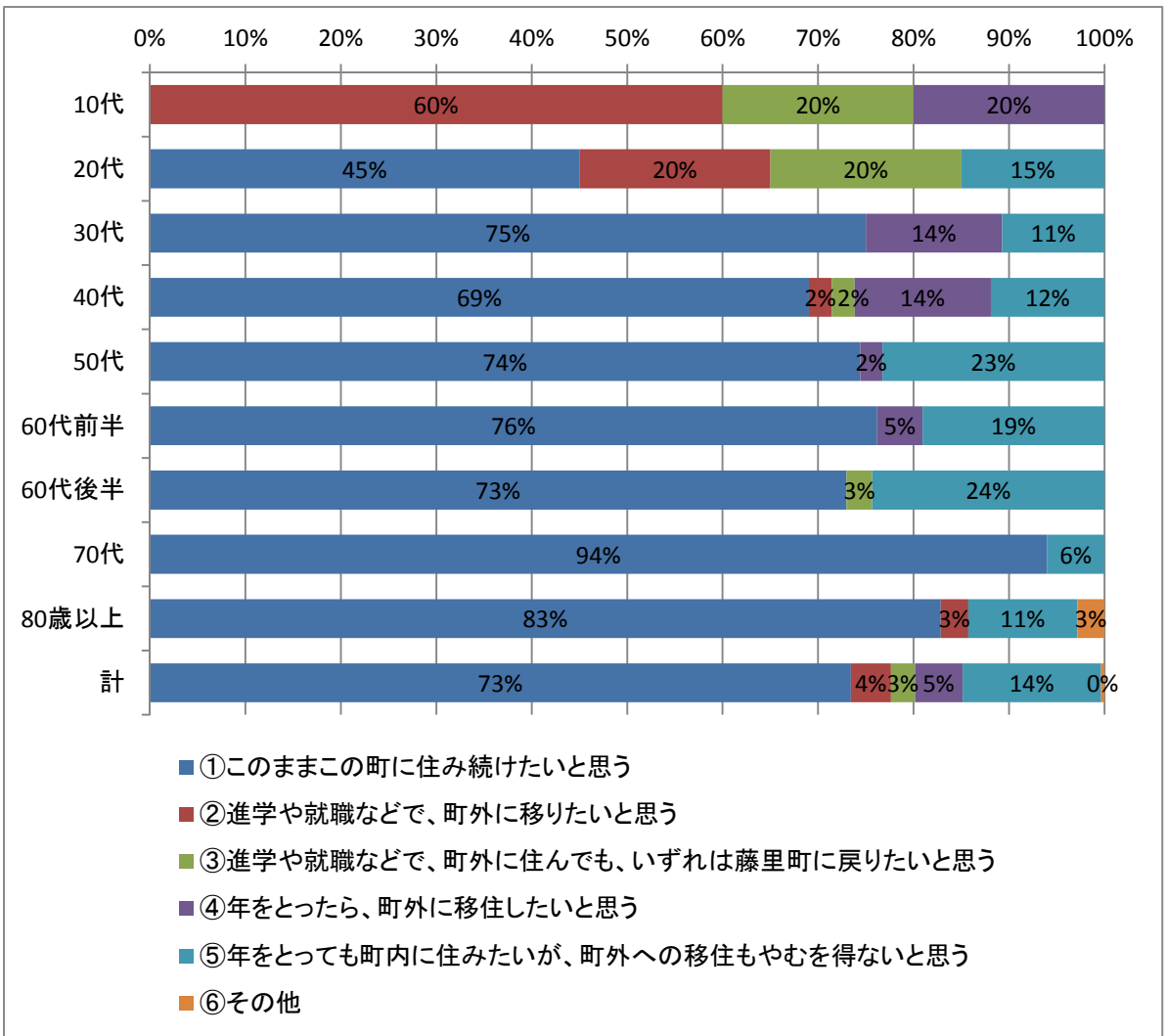


図 このまま住み続けたいか（補正後）

(2) 藤里町に住んでほしいか

将来、あなたの子どもや知り合いなどに、藤里町に住んでほしいと思うかについては、平成 27 年度の調査と今回の調査で大きな違いは見られないが、「町外に住んでもらいたいと思う」割合がやや増えている。

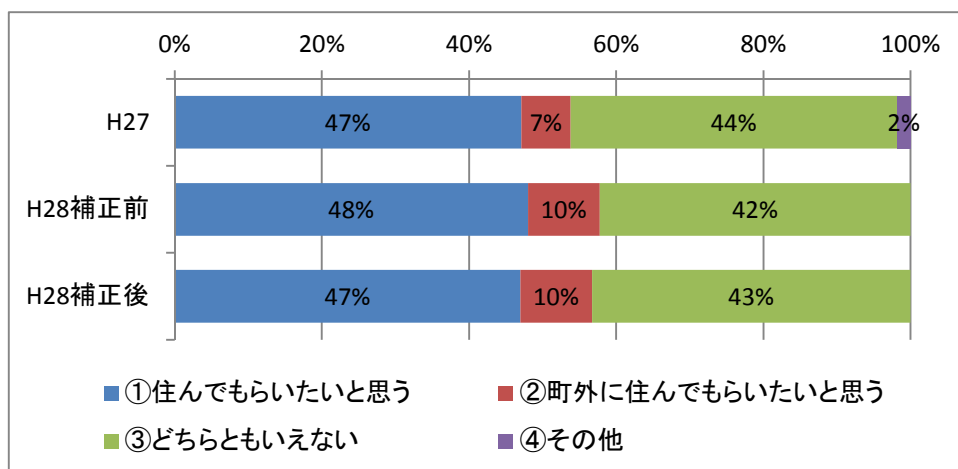


図 藤里町に住んでもらいたいか

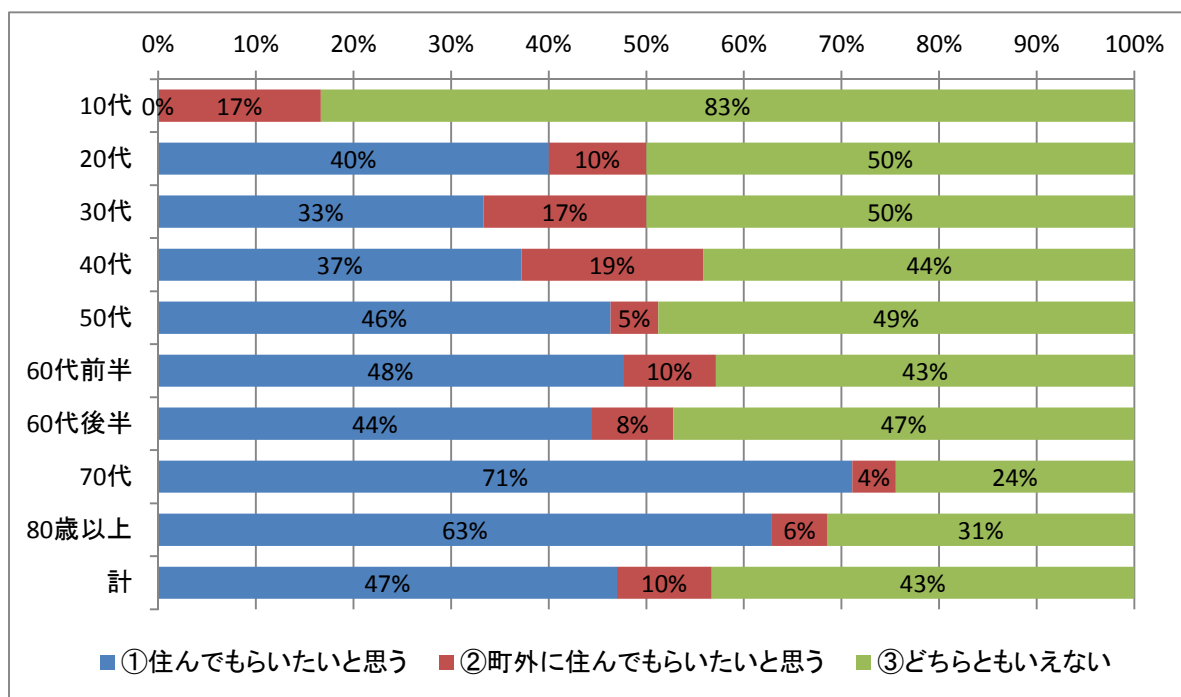


図 藤里町に住んでもらいたいか

*その他の内容

- ・ 生活基盤の確保が出来れば考えてもらう。(60代後半)
- ・ 将来が心配(60代後半)
- ・ 生計が成り立ち本人が住みたいのであれば住んでほしい(70代)
- ・ 生計が成り立つのであれば良いがむずかしいのでは(20代)
- ・ 本人次第(40代)
- ・ 仕事ないため住めない(80代以上)
- ・ 若い人にとっては仕事がないと難しい(60代後半)

(3) 愛着度

藤里町に愛着を感じるかどうかについては、平成 27 年度には「強く感じる」が 41%だったのに対して、平成 28 年度は 31%まで減少している。「まあまあ感じる」を加えると、いずれも 84%であり、変動はない。

「強く感じる」回答の差は、アンケートの設問が平成 27 年度は多かったのに対して、平成 28 年度は少なかったことが影響している可能性がある。

「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標は、平成 27 年度現状値が 84%であるが、平成 31 年度には 90%を達成することを目指している。

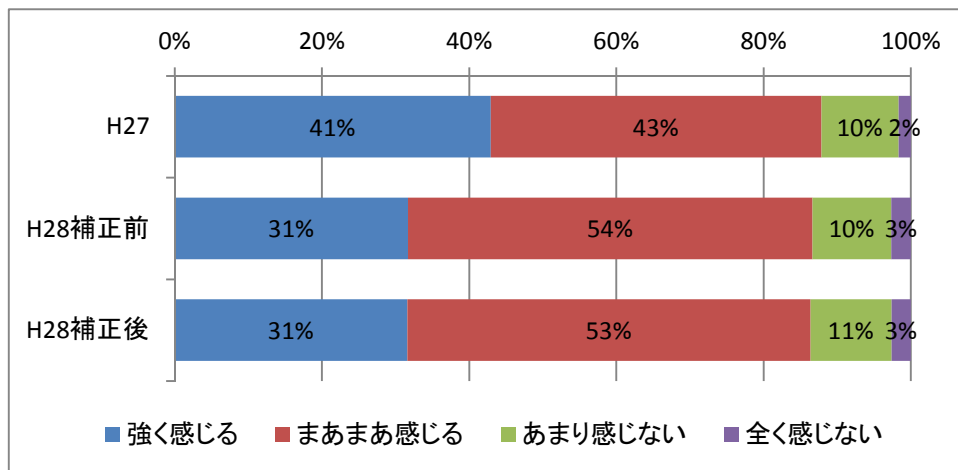


図 愛着度

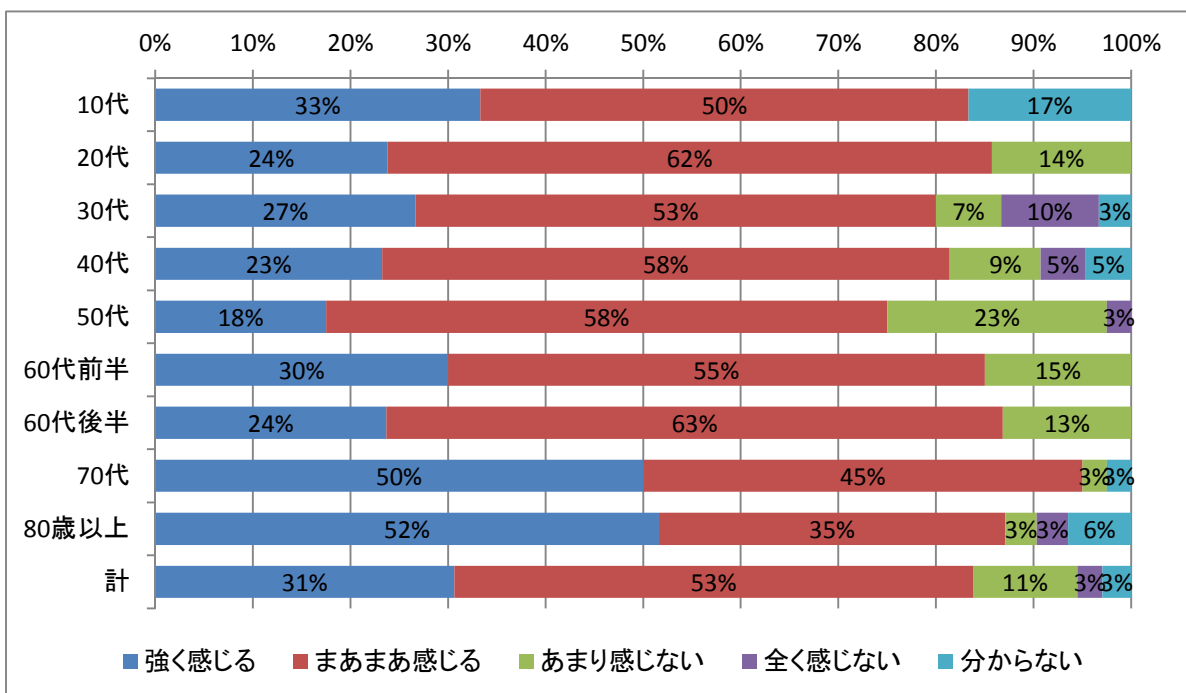


図 愛着度

4. まちづくりの現状の評価について

(1) 普段のおでかけ環境の満足度

普段のおでかけ環境に満足しているかについては、全体では「満足している」が26%から17%に減少し、「どちらともいえない」が15%に増えている。満足度は、減少している。

「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標は、平成27年度現状値が60%であるが、平成31年度には80%を達成することを目指している。

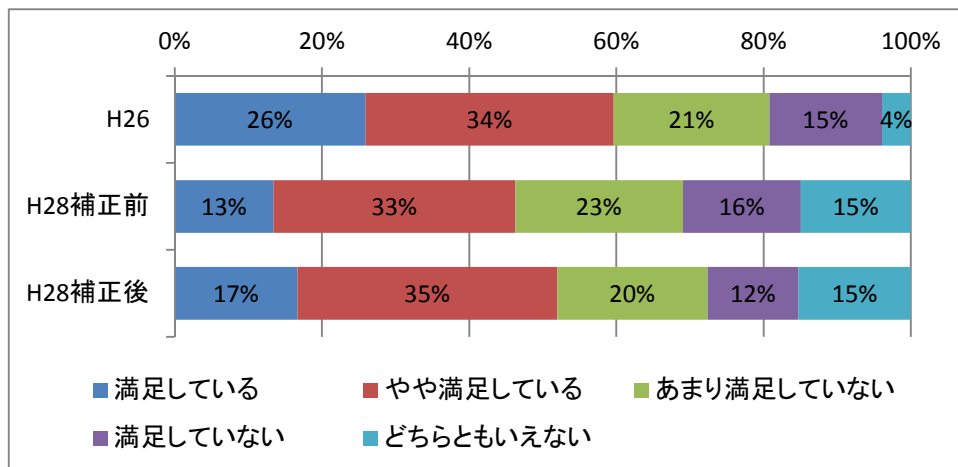


図 おでかけ環境の満足度

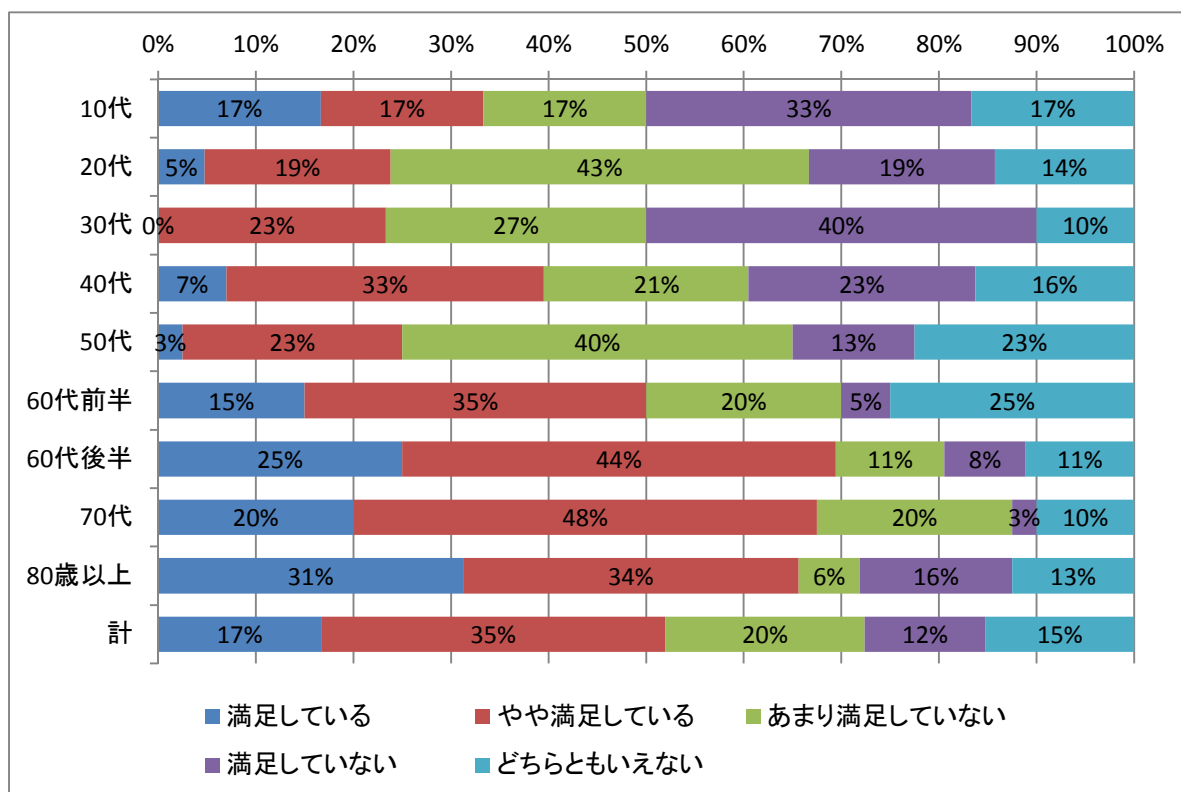


図 おでかけ環境の満足度

(2) 人口減少に伴う人手不足

普段の生活の中で、人手不足を感じることはあるかについては、「強く感じる」は、全体では14%であるが、40代をピークに高い割合となっている。どの分野で感じるかについては、「集落の行事を担ってくれる人」が特に多い。また、「高齢者の見守りや日常生活を支援する人」や「何か困ったときに声をかけたら手伝ってくれる人」「草刈りなどの地域の共同作業」も3割を超えて比較的多い。

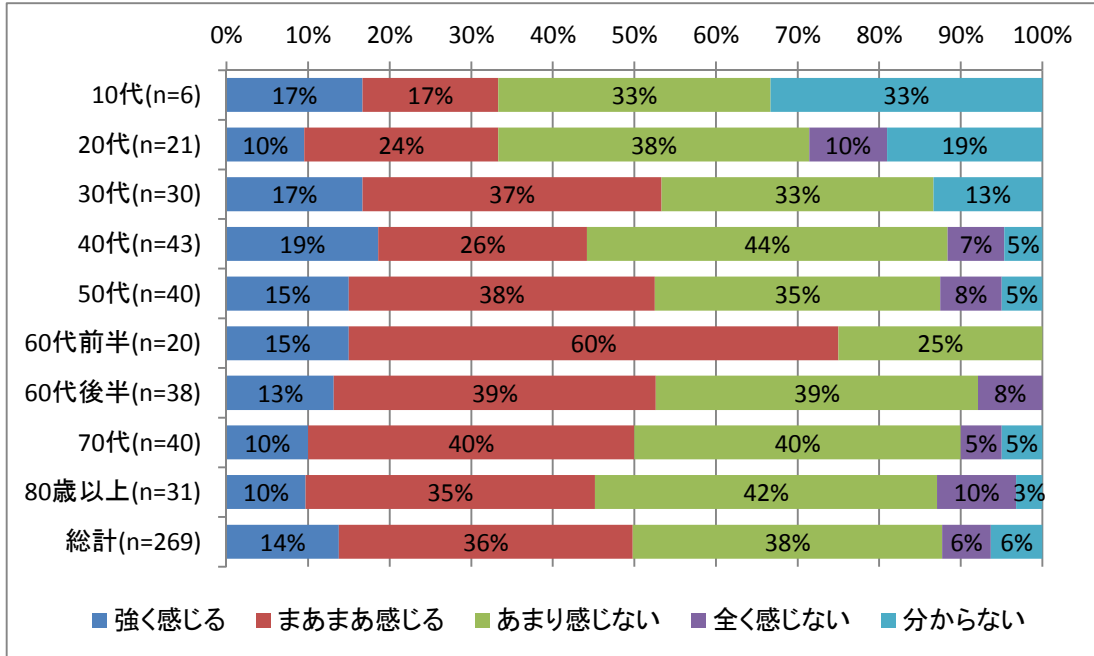


図 人手不足を感じるか

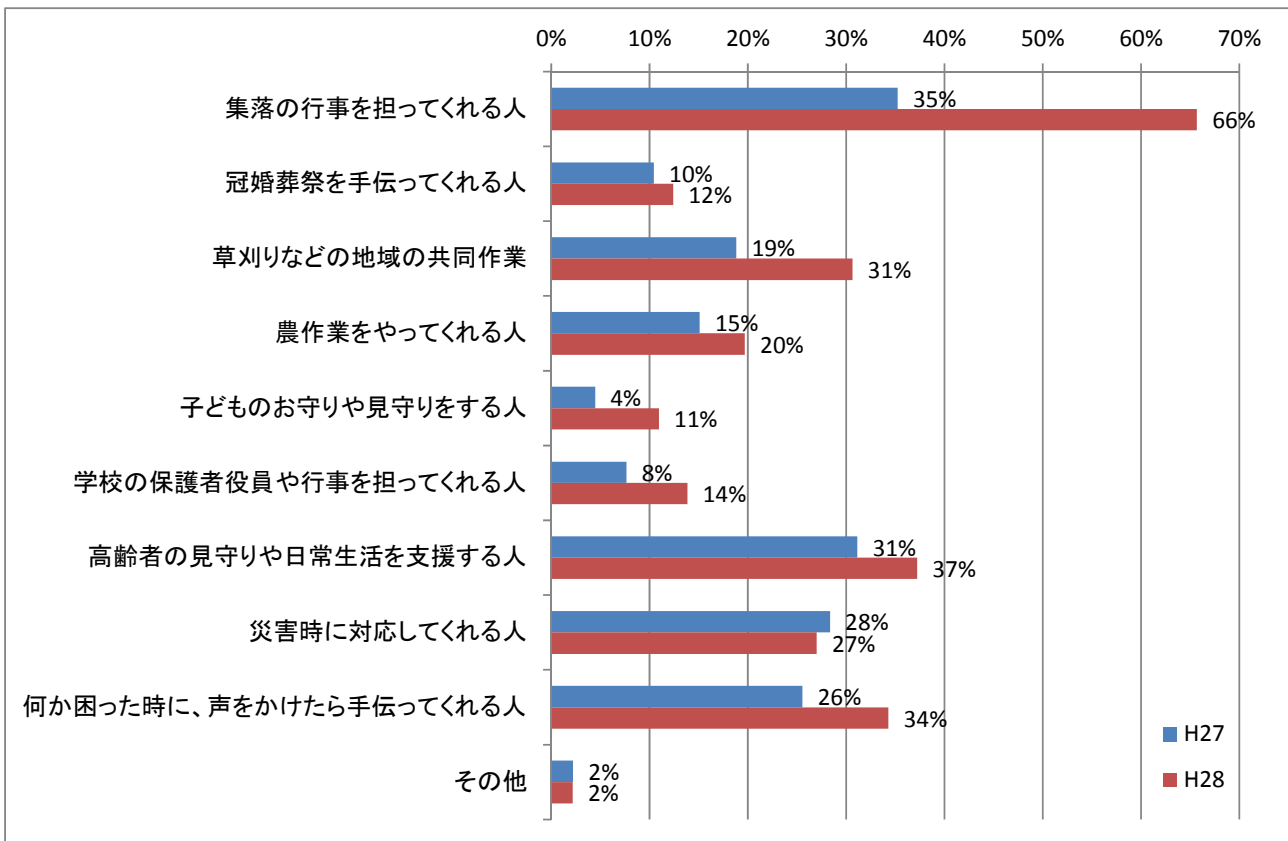


図 人手不足を感じる分野

(その他)

- ・ 高齢者の家の雪かき
- ・ 高齢世帯が多く冬期間は大変と思う(除雪関係)
- ・ 冬期間の除雪
- ・ 人手不足だと思うけど、手伝ってあげようと手を貸すと「若い人は何も分からないから」と拒否される。
- ・ 職場
- ・ 地域の役員
- ・ 従業員
- ・ 社員不足

(3) 人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて

人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思うかについては、「積極的に受け入れたほうがいい」が44%、「積極的ではないが、やむを得ない」が52%を占めた。若い年齢層ほど「積極的に受け入れたほうがいい」という割合が高い傾向がみられる。

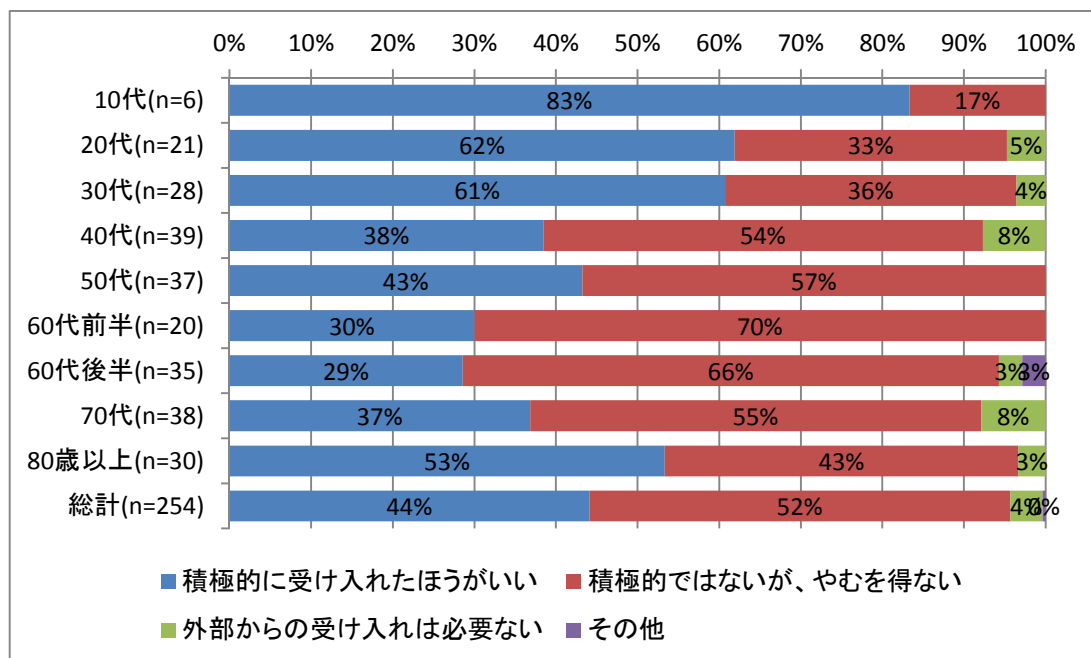


図 外部者の受け入れについて

(その他の内容)

- ・ 周辺がはっきりしていれば◎
- ・ 外部から受け入れしてもいいけど、定着しないと意味がないんじゃないかなーって思う。
- ・ 藤里町が活気づくのかどうかしら？
- ・ 地元雇用を促進すべき
- ・ 移住と言ってもずっといるわけではないし、ここをステップにして結局他の市町村へ行くのはどうかと思う。
- ・ どっちでも良い

5. 情報の発信について

(1) 情報の入手方法

普段、町のお知らせ・情報はどこから入手しているかについては、「町の広報」と「回覧板」が7割を超えて多い。次いで「防災無線」も5割を超える。

年齢別にみると、10代や20代は広報や回覧板は少なく、「防災無線」や「フェイスブック」がやや多くなる。

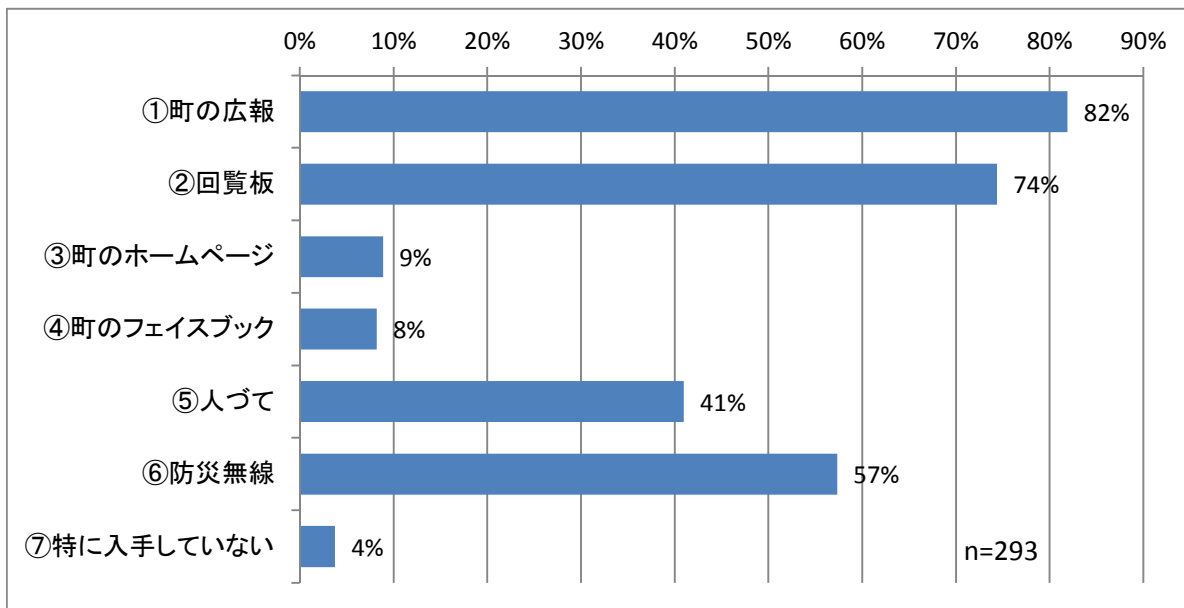


図 情報の入手方法

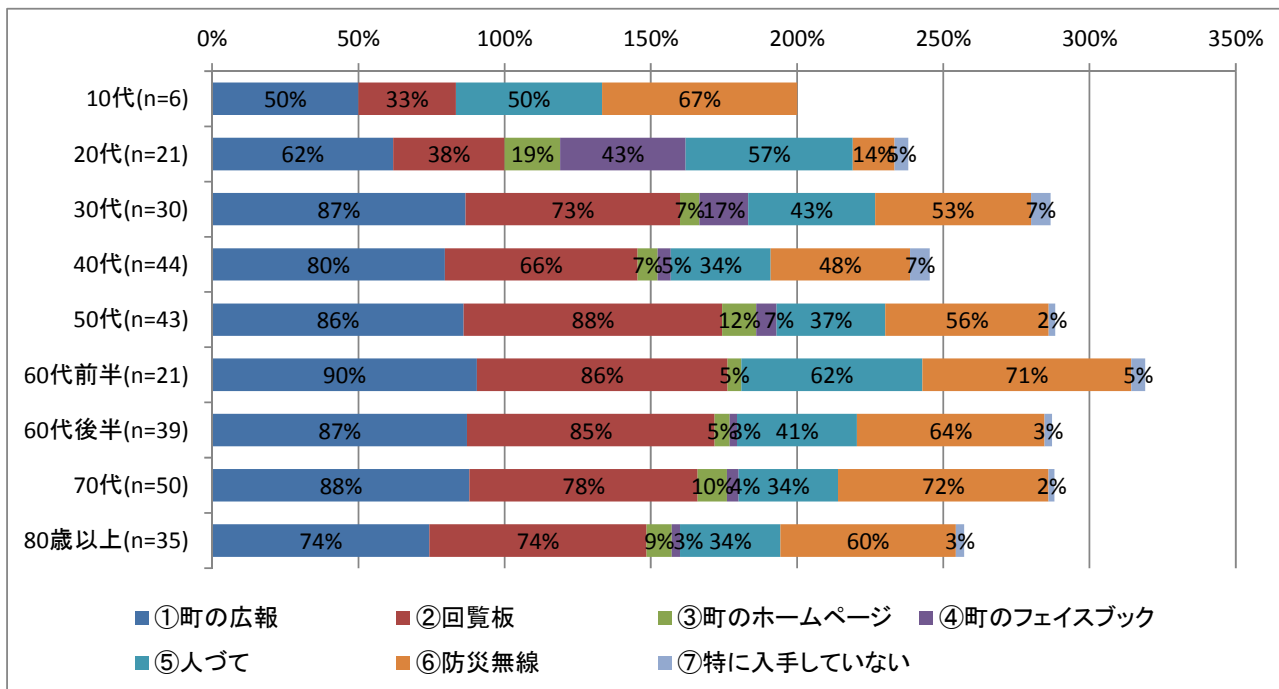


図 情報の入手方法

(2) 「とじこじ」の認知度、普及度

地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」と1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」を知っているかについては、85%が「知っているし、読んだことがある」と回答している。

しかし、10代については33%に留まっている。

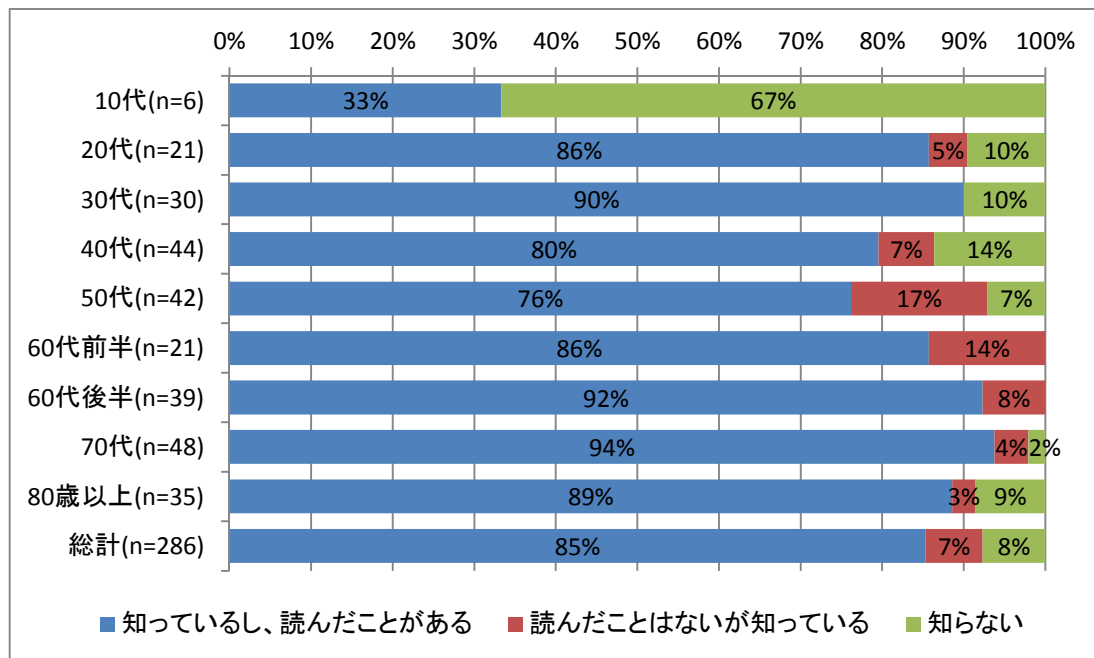


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度

(その他の意見)

- ・ 地域おこしとの関連が理解できない
- ・ とじこじはわかるが、とんじこんじは知りません。
- ・ 毎号楽しみにしている
- ・ 大半の人が「とじこじ」ではなく「とじくじ」ではないかと言っておりますが？

6. まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想

【10代】3名

- ・ 色々な町おこしが行われているので特にありません。
- ・ 藤里町が行う、その季節に合ったイベント・行事は町民や町外の人たちとの交流を図ることができ、まちづくりとしても人口増加としても魅力的だと思う。
- ・ ずばりレストハウス付近に建てた遊具は全く意味のないものだと思う。理由：普段の人通りがほとんどないのに(多いのは紅葉祭ぐらい)多額をかけて作る必要もないと思う。2. 外部に通じる交通機関が少ない。あんなに土地があるのに、(例：県道くらい)せっかく能代という外部に通じている市があるにも関わらず、町につなげる駅すらない。(費用がないなら、安物列車でもいいと思う。)自然が大きな紅点なら移住者を呼びこみたいという意志が感じられない。町の中のことだけやっても人は全く来ない。二ツ井まで来なければ、藤里という文字すら出てこない。(都会に行っても藤里を知らない人が多い。近い所の能代でさえ)森林を大切にしたいなら下を通る地下トンネルでも作ればいい。3. 特産品を増やせばいい。町の注目ポイントを増やせばこそ、人はやってくるものだと思う。藤里を知ってもらわなければ、町の外に出ても胸を張って町をアピールすることができない！4. 町がなかなか発展しないのはなぜか？それは、町の代表が意味のある意見を出さないからである。こんなに不便で不安な町はあるだろうか。立てよ町民、森や動物、草木たちよ！年寄りと若者の力を信じることだ！秋田杉は加工のしやすさと軽さに優れていることから戦時中は木製飛行機の材料になったと言うのではないか。その特性を生かし、新しい工業を切り開くことができるはずだ。工業というのはただ鉄と機械油の世界ではない。人の力で切り開くからこそ工業なのだ。5. 鉱山の利用価値はないだろうか。森、自然、川、植物、秋田杉、水、山、鉱山、これだけそろってればまちづくりができたのでは？6. 町の業を残したいならそれを進化させるべきでは？あるいは何かと合わせるとか。

【20代】11名

- ・ まだまだ人口増加やまちづくりの情報発信が足りていないと思う。
- ・ 人口増加に関する取り組みについて、具体的にどの様な事をやっているのか、分かる人がどれだけいるだろうか。住んでいる私達からしたら関係のない話なのかもしれないが、宣伝不足は否めない。自然の豊かさしか押していないこの町にどれだけ魅力を感じる人がいるだろうか。長い目で見て、子育て世代が増えないと、人口増加にはつながらないと思う。子供や赤ちゃんに対するイベントは他の町に比べて明らかに少ないと思うし、情報もない。公園もなければ、親子が過ごせる場所がない。結局、町から出て遊ぶ家族がほとんどだと思う。役場の人間は感じないだろうが、かもや堂も行きづらい。そういう雰囲気が出ている。
- ・ シェアハウスなど流動的にでも外部の人が自力で入り込めるスペースがもっとあればと思います
- ・ 協力隊の人達はがんばってくれていますが、町民が盛り上がっていないような気がする。白神山地だけにたよらず、他の自然もいい所がいっぱいあるのでゆとりあ付近も整備し、宿泊した人が散歩に行ったり、川原で遊んだりする事ができる様にするとか、素波里の夏の星観察とか、すてきな事はさがすといっぱいあるのでは…。災害に向け老人も多い町なので避難経路や部落ごとの体制とかきちんとした図式化しておいたらいいのではないのでしょうか。

- ・ イベント情報に関しては、もう少し発信してもいいと思う。せっかくいいイベントがあるのに外に知られていない。町を知ってもらわなければ増加にもつながらないと思う。・ 住みやすいところはあるが、生活には厳しい。若い人向けの仕事があれば…
- ・ 一人暮らしの高齢者が孤独死する危険性を減らすための取り組みを考えてほしい。
- ・ 移住者がいても、どこに相談すればいいかわからない人がいるので、積極的に宣伝するとういと思います。移住したくても、誰に話せばいいかわからない、という方がいました。
- ・ 人口増加のためには、働く場所と住む場所がもっと必要だと思います。私自身、以前は町外に住んでいましたが、結婚して藤里町に住むようになりました。職場は町外に通っています。通勤が大変なので、できれば藤里町内で働きたいですが実際あまりない(とても限られてくる)のでなかなか転職に踏み切れないう。また、以前に町外の知り合いの方から「子供が藤里町の役場の試験を受けた。もし合格したら家を探すのを手伝ってほしい。一軒家に一人暮らしも大変だろうけど、実家から通わせるよりは楽かなと思って…」と頼まれたことがあります。結局その方は採用にはならなかったのですが、今後町外からも若い人を受け入れるためにも、もっと一人暮らしや核家族の方にも対応できるアパートや住居を増やしてほしいです。空き家の活用も良いですが、若い世代の中には「一軒家に一人暮らしはちょっと…」と感じる人も多いと思います。
- ・ 働ける職場が少ない。
- ・ イベントをもっとやってほしい。宣伝をもっとしたほうがいいと思う。町外にもイベントを宣伝すれば、人が集まると思う。
- ・ もっとイベントの広告をしてほしい。

【30代】13名

- ・ 今はまだ思い浮かばないので、これから少しずつ考えていきたいと思います。
- ・ 正直なところ取り組みの内容などはよくわかりません…町全体を見ても高齢者の割合の多い町なので福祉や看護に重点を置いた町づくりをしては？介護、看護を必要としている家庭は多い現状かと思ひます。介護や看護が提供できる職場環境があれば必然的に外部からの専門資格者の就業者が集まり職場に近い居住を求めてくるのではと思ひますが、… 高齢者が多い町だからこそ、そこに重点を置いた取り組みがあっても良いのではないのでしょうか。人が集まる事は仕事環境がある整っている場所だと思ひます。仕事があつて収入が得られるから住みたいと思へると思ひます。今の藤里町には働ける場所がありません。
- ・ 町には興味も期待もしてないけど、静かに平和に暮らせたらいいいです。色々な方法を模索してもいいけど、効果が出るかは可能性として低いと思ひます。
- ・ 藤里町にあつて他にはないものの一番手は、白神山地。白神山地のふもとの自然豊かな町で、子育てをできる事に、満足している。人口が減少し、様々な分野で存続が不可能になる事が考えられる。そうならないために、町民一人ひとりが考えを出し合いながら進んでいく事が大切と考える。藤里町として、人口減少対策について、どういう目標を立て、その目標に向かつてどう取り組み、結果どうだったかを、もっと知りたいと思ひう。
- ・ ”子育てをしやすい町” になってくれたら…と、つくづく思ひ願っています。町の中に、小児科、ドラッグストアなど”今すぐ！” 欲しいものがなく不便さを感じる部分もありますが、それを言つても無駄だとも思ひ、自分ができることを取り組んでいけば…と思ひます。まちづくり、人口増加…。藤里町の魅力を存分に発信するためには、今日の前にいる子どもたちに”藤里町”を知つ

てもらふ必要があります。それが、のちの藤里町につながっていくのだから、私達が藤里町を大切にしていかなければならない。子どもたちのために何ができるのか、何をしていきたいか考えていきたい。藤里町、私たちのためにいつもありがとうございます。

- ・ 将来人口減少し高齢化がますます進む。介護から町おこしを考えてみてはどうか？町、社協等、場所、人、国(援助等)がキーになると思います。
- ・ 人口増加だけで言うならこのままだと若い人が残る理由があまりないと思う。ただでさえ仕事にも藤里になく町の外で働くしかなく、わざわざ時間をかけ通勤するなら他に住む人だっていると思う。なにより藤里には面白い所が「今の子供」にはないと思う。昔は人数もいて大きな遊びをできていたから、今の子の人数では…。まず取り組みがあまり知られていないのかも。
- ・ 第3子以上の家庭には補助金を出してほしい。
- ・ 予算の使い方が間違っていると思う。かもや堂、黄の軽トラ、ねまるベース、必要ない！！
- ・ 子供が増えてきているので、遊び場を増やしてほしい。雨が降ると遊ぶ場所がない。子供に対する助成をもっとしてほしい。そしたら子供を産む人が増えると思う。他の市町村の人も移住してくるかも。
- ・ 特になし！（いまさら、厳しいかも！）
- ・ もっと子どものいる世帯に対する取り組みを手厚くしてほしい。他の市町村と、ほとんど変わらないので、子どもが増えること＝人口増加などにはならないと思う。また、藤里町には住んでいてよかったと思うことが全くと言っていいほどないので、何か他の市町村に自慢できる特別な制度的な物があればと思う。
- ・ 子どもの教育や、子育て環境の充実にすごく力を入れていると感じています。それが移住者や藤里町に残りたいと思うきっかけになれば…と思うのですが、それにプラスして、「職(仕事)」という問題をどうしていくかが難しいと思います。”働ける場所”があって、”子育てがしやすい”この2つがそろえばよいなあと思っています。

【40代】9名

- ・ 防災無線で火災などのお知らせがあると良いと思う。火災など、災害時不安である。防災無線がとぎれて聞き取りにくい時がある。
- ・ 学童の時間を長くする(保育園預かり保育も)。あずかる学年を6年までにする。病気の子供も預かる。高齢者の対策は十分出来てると思うが、若い人にはまだまだだと思う。フードカーができたが、コーヒーだけでなくパンやケーキ、ドーナッツなどをあつかってほしい
- ・ 空き家相談窓口が出来たことはよかった
- ・ 人口増加目的であったとしても、今まであったものを無くしてしまう取り組み(やり方)に不満
- ・ 中学校の事です、人数が少なく、野球部が大会に出られなくなるのでは…？といううわさを聞きました。最近の傾向としては、男子が少なく女子が多いと思いますが、代わりに女子はバレー部を無くし、バス部一本にしました。バス部作ってもいいので、バレー部まで無くしてほしいありませんでした。(今までの栄光が…)今一度、もう一度、中学校の在り方を考え直してもらいたいです。本当に、子ども達の事を考えて、全ての子ども達が藤里に残れるよう考えてもらえる事を願っています。どうぞよろしくお願い致します。
- ・ 子育てはしやすい町であると思うが、予防接種などが大変でした。・子ども第2子ぐらいからお祝い金などがあれば良いかなと思います。・仕事がないので、定住はむずかしいと思いますが、冬を

乗り越えるためのなにかしらの優遇措置があればよい！（灯油代は高いです、生活を圧迫）

- ・ 藤里町には働く職場がないので、どんどん町から離れていって行ってしまうのだと思う。若い人、子育てしながらでも安心して働ける職場がなければ、人口は増加しないと思う。藤里町はとても住みやすい所なので、もっとアピールを…。
- ・ まちづくり、人口増加の取り組み等のこと、何をしているのかわからない
- ・ 30代後半～50代中頃まで、子供の成長でお金がかかる時に対しての負担が大きい。お金がかかる子供達に対しての町からの援助などあったらすごく助かる家庭が多いと思う。子供を藤里町から通える所に就職させたいが、そうすると負担が増える。働き盛りの年齢に負担が多くなる。もう少し働き盛りの年齢家庭に助かるような援助など考えてもらいたいのが正直です。住み続けたくても住みにくい町だと思う。（老人や幼児への援助はすごく良いと思うので）

【50代】14名

- ・ 空き家をリフォームして、Iターンの人に貸し出し、10年くらいで買い取ってもらって定住してもらおう。・過疎集落を無くし、中央地区に集中させる。（大瀧村のような街並み）
- ・ 他の町のように移住者を集める取り組みをするなど、町に遊びに来てもらえる様な事を計画した方が良いと思う。町民もまきこんで行ったらいいと思う。・スキー場やっているうち”森の駅”の営業を行ってはどうか。何も無いのではせっかく来ていただいた人に申し訳ない。「行っても何も無いからなあ」と言われるのは残念！・ゆとりあをもっとアピールする。周辺の環境をととのえ、ゆったりとした気持ちですごしてもらえる様にする。・子供達にイベントや特産物を考えてもらい実行する。
- ・ 町民をまきこんだイベントを行うと良いのでは？歩行者天国を帰省して来た人たちにも楽しんでもらうようにする、又はもっと町に遊びに来てもらえるようにする。子供達にイベントを考えてもらい、いっしょに行く。町全体が盛り上がるようになればいいのでは。
- ・ 他と同じことをしていても無駄！白神山水をもっと販売してはどうでしょうか？ごく一部の人々で満足してはダメでしょう。国や県から支援があるからといって、何でもやれば良いと思っていてもダメ。少しでも頼らないでやれるものを考えればいいのでは？箱物を作っても、維持費もかかる事を忘れないで！藤里町はなくなるかも？
- ・ 最近、行政でもいろいろな事を工夫したり、取り組みが感じられ、努力してくれていると思われまます。ですが、それと同時に何か企業(工場)を町に誘致していただき、働ける環境を増やしていくことも必要であると感じます。
- ・ 町に柱となる雇用の場が必要。・空き家の活用、町外・県外からの移住をもっと促進。・農業の法人化を進めて雇用を増やす。
- ・ 増やして
- ・ 矢坂バイパスの旧工業団地、旧田畑を宅地に整備し町外の人達に無料で土地を提供したら良い。（家を建てて転入し住むという条件付き）人口増加目的の為。
- ・ 時代の急速な変化に伴いいつしか町議会からも「企業誘致」の声が聞かれなくなりました。高齢化も全県ワーストクラスで進んでいます。その中で、人口増加は厳しい状況です、むしろ手遅れに思います。・かつて国から支給された「1億円」はどうなりましたか。・ホテル「ゆとりあ」の赤字補填は期限を定めないのでですか。・「舞茸」「加工センター」等、目標は何か、それに対しての計画は。・農業、林業、畜産等、個人・団体を一つに集約し経営できませんか。*「まちづくり」

の活動は理解しますが、手を広げすぎ何をしたいのか、その結果、どうなったのか今後どうするのか私個人では評価できません。最後に、今回のアンケート内容で、人口減少・まちづくり、暮らし、子育てしやすいまちづくりが実現できますか。

- ・ 以前別のアンケートでも書いたことがありましたが、働く場所、娯楽施設のない当町に県外で働いている息子に戻ってきてほしいとは言えない、と思っています。
- ・ 町内には結構空き家が多いことを知りました。ある事情で人様の住宅を借りていますが、ご近所の家の中での話し声が聞こえてくるのはびっくりです。働きたくてもそういう所がないし、自分で働くには車がなければダメだし、お店はないし、とにかく時間つぶすところがない。図書館へ行っても愛想悪いし。何かあると、人のせいにしたがる。たぶんこの町は大きくならないと思う。すみません。参考になる意見じゃなくて。
- ・ かもや堂は入りにくいと思う。特に高齢者の方はそう思っていると思います。素通しのガラスは一部分だけでも隠れるようにしたらどうか。
- ・ 今のままの藤里では藤里がなくなる
- ・ やっている内容が町民全体に行き渡っていないと思う。役場関係の人達だけでやってる感じがあまり効果的でないと思う。

【60代】19名

- ・ アンケートだけでなく戸別に直接町民の意見を聞くことも大事だと思う
- ・ 大学などの合宿所などの施設の勧誘。2. 高齢者支援者などが入る研修施設やグループホーム。3. 赤字の第3セクターから撤退！
- ・ 起業する人の不足、働く場がない→定住策
- ・ 一生懸命がんばっているのが伝わってきます。これからもよろしくお願いします。
- ・ 若者達が住みやすい町ではないと思う。だから町外へ出ていくと思う。仕事や魅力を感じるものがない。
- ・ 働く場所が少ない(特に若い人の)ので安定した職場が欲しい
- ・ 過疎化で高齢者が多いこの町に、常勤医師は色々な面でむずかしいかと思います。しかし、高齢者にとってはわが町のお医者さんとして身近な所にいれば、心や体のケアにもなり、そして安心のできる心のよりどころともなって住み慣れた家で最後を迎えられることだって可能になるかもしれない。これからの藤里町のまちづくりの中で考慮していただければと思います。
- ・ この町の町民は発想力がなさすぎる。物事に対して真面目に対処出来るが、次の事とか先々の事に関しての対応能力が低すぎる。食べ物に対しても「どどここの物はうまかった、まずかった」と批評をしても、自分でこれを作ってみようとか意欲がない。「こはじょ」「すんぐり」などは酒、ジャムに出来るんじゃないか？「きりたんぼ」って鍋でしか食べないの、もっといろんな食べ方があるんじゃないの？秋田県人の「井の中の蛙」的な考え方では発想は生まれないし、子供達の奇想天外なアイデアでも「もしかしたら」と考えていかないとこの町は滅びてしまう。
- ・ 地域おこし協力隊員発行の「とじこじ」を読んで、町のくらしを思い返しております。今後にかせるものを掘り起こし、次の世代に残すことができたらいいと思います。・ 外部からの移住者を受け入れることは、別の視点から発想を得ることが出来ると思うので、人口増加、町づくりに期待できると思います。
- ・ 高齢者になっていくので、雪寄せや雪落としが一番不安。業者に頼むと、お金が高いので考えてし

もう(近所も皆、高齢者になるので)。暮らしやすくなればと思う。

- ・ 雇用の場がないとすべての取り組みに対して大変困難だと思う。防災無線に対して、有事の際のサイレンは全所に流さない方がよいと思う。現場から離れた集落では、パニックになっている。防災無線で、どこで、何が…と流したらどうかな。
- ・ 藤里町に残りたくても働く場が少ないので、このままでは仕事を求めて町外に出る人が多いのではないかと思います。
- ・ もっともらしいきれいごとを言っていないでなりふり構わず、何でも最後までやってほしい。なんかいつの間にか立ち消えて事が多く感じます。
- ・ 学生達に町の良い所、生活に対して何が不安か聞き出すことが必要ではないでしょうか
- ・ 人口増加のために、どんなことをやっているのかわからない。
- ・ 藤里開発公社の運営に関して町は外部企業に売却すべき。・町内で新規就業者に一律就業手当を出すべき(5年～7年間、月額2万円以上)
- ・ 真摯に現況をとらえ、対応してもらうことを祈る。
- ・ 若い人達の働く所を増やしたら良いのでは。
- ・ 国からの金は、だんだんとあてにできなくなる。一人暮らしの老人も、もう増えすぎているくらいで困難が心配される。国や県の言いなりにならないと金が回ってこないのかもしれないが、その先を考えて、町独自の生き残りを計画しているのもいいと思う。かつては鉱山もあり、農林業も仕事にはなったが、これからどんな仕事を作れるか考えたいものだ。国とか県の役人は山村の現場を知らない。言うことは出来るだけ聞き流すようにしてもらいたい。大体にして、国を借金まみれにしたのは政治と高級官僚と考える。
- ・ キーワードは若者の住める環境づくりだと思う。会社企業の誘致が絶対条件だと思うが、行政の手腕にかかっているところ多大だと思う。知恵を出し、中央に出向いて企業探しをしたらどうか。アルビオレさんは、しらかみの冠に共感してきた会社。その辺のところに道が開ける気がする。企業といえば、物を生産するところ思っている人が多いが、逆の発想で研究所等もある。中山間地帯のわが町は広大な面積が結構ある。売りはたくさんあると思う。あとは熱意だと思うが、まずは行動したらどうか。

【70代以上】34名

- ・ 昔のように嫁婿世話す人が居ればえてねがな一…
- ・ 一生懸命がんばっているのが伝わってきます。これからもよろしくお願いします。
- ・ 若者達が住みやすい町ではないと思う。だから町外へ出ていくと思う。仕事や魅力を感じるものがない。
- ・ 藤里町にこんな世界的な白神山地があるのに残念です。(人がきてくれないのが)
- ・ 若い人達の職場だと思います。
- ・ 人口増加に関する取り組みについては、関心ありますが具体的にどうすればいいかは思い浮かびません。
- ・ 藤里町に残りたくても働く場が少ないので、このままでは仕事を求めて町外に出る人が多いのではないかと思います。
- ・ 町で宅地造成を行い、移住者に格安で払い下げしたらと思います。
- ・ 町民皆で仲良くやっていきたい。

- ・ 協力隊員がいて、とても心強く思っています。色々と頑張ってくれて、とてもありがたいです。
- ・ 何の事業に取り組みまれても町民の関心が薄れてしまう気がするので、一人ひとりの責任感が保たれる様に指導してはどうでしょうか。
- ・ 我が町は人口減少と高齢者人口が年々増加するため、介護・医療サービス人材が必要となる。首都圏でこうした人材の大量吸引が始まる時期はすぐに訪れると思う。今から若者を呼び寄せ定住促進にもつながるし、その対策が必要ではないか。
- ・ 人口減と皆は騒ぐけど、その割に対策を考えていない様に思う。家屋利用等も声は上がっても、それだけで実行へ進んでいるか？本当に町民が一つになって意識を高めないと藤里町がなくなってしまうのではないかと心配だ。こんな住みよい藤里町をもっともっと町外にアピールして呼び込みましょうよ。素波里も立派に整備されましたし。桜まつり、夏まつり、紅葉まつり、と他町から行楽に呼びましょうよ。ゆとりあ温泉と峨ろろの滝を組ませたり、田中のいちょうと大沢のけやきを組み合わせた巨木見学等、町民みんなで知恵を出し合ったら、きっときっと藤里町は大丈夫と思います。他市町の人々は「藤里ってよく頑張ってるんだね」って言ってくれます。皆で頑張りましょうよ。500 人も町民に 82 円の切手代、もったいないですね。「役場へ届けてください」ではだめなものでしょうか。みんなスーパーまで買い物に来ますよ。追. かもや堂、ねまるベース、もっと活用方法を考えねばなりませんね。
- ・ 1 つでもいいから誘致工場をもってきていただき、”働く人”の多くいる町づくりに取り組むことが、今一番大事な事ではないかと考えている。・この人は今本気でまちづくりに取り組んでいる人なのかを”見極める人”も必要ではないかと思われる。人物の評価はすごくむずかしいことだけど…。・福祉関係の方たちは、”福祉での町づくり”という目標をかかげているのだからもう少し町民の実態を知り、町民のためを思い、町民へ寄り添い、自分の仕事に誇り(正しい意味の)をもって責任ある行動をしてほしいものと常に思っている。・白神山地の山菜を食べたいと都会に住んでいる友人たちはよく話していますが、購入のすべがない。街の中に産直店があればすごく助かるのだが…。・これでは高齢者が住むのは難しいと思うこと。道路の除雪に感謝ですが、家の前の大きな雪のかたまりは寄せることができず大変困ります。紙面が足りず書かれませんでした。こういうことが話題になりますので書きました。
- ・ 役所があって商店があるのが町の中心と思うが、その形態が壊れている。企業の誘致もなく就業することができない町としては農林業をやるほかないと思う。農産物でも他の市場より安くないと客は集まらないと思うので、町でも支援をしなければならないと思います。
- ・ 町に若者の仕事がないので他町村、また仕事を求めて都会に出ていくのか町外に行くのだと考えます。息子に退職したら藤里に帰ってくるでしょうと言ったら病院もない所に行って生活できないという話でした。
- ・ 空き家が多いのでリフォームして町外・県外などから若い人達に来てもらえるまちづくりに力を入れてもらいたい。・空き農地など借入して当該・県外から農業をしてくれる人たちに利用しやすい農地を探し貸し出してもらいたい。
- ・ 誘致企業と住宅補助があるとよい。
- ・ うちには今 3 人おります。でも 80 になるので雪のことをかんがえてほしいけどもこの藤里は融雪溝が欲しかった。80 になっても屋根に上っておろしているのです。考えてほしいです。
- ・ 人口減は全国的な現状とは思いますが、白神山地のある町をもっとアピールすることも一つの方法であるし、何ととっても若者たちが定住のための仕事のある町づくりが必要だと思います。

- ・ 町づくりご苦労様です。10年後の藤里はどうなっているのでしょうか。その時まで元気で暮らしたいと思います。若いころは夫婦2人だけの生活になるとは考えもしなかったしこれも時代なのかなと思っています。
- ・ 今は若い人はあまりいないですね。自分は年をとっているので先の事が分かりません。
- ・ 色々とすごく頑張っていると思っている。70代以降になると、気持ちに行動がついていかないのでもう少し、年の若い方の人々にいろいろ興味を持ってもらってリードしてもらいたいものである。これが一番の問題では？
- ・ 地方に移住願望があるが、職場がない。生活が出来ない。
- ・ 藤里町は高齢化が進んでいる。その対策を分かりやすく、自感できるように出していただきたい。例えば、買い物、病院へ行くにも不自由している方が多いので、その対応等を考えてほしい。人口増加に関する取り組みについて、色々実施しているようだが、みんな中途半端になっているのではないか。報道等によれば、移住など進めているようだが、その金は無駄になるだろう。将来性のある産業に集中し雇用を増やさないと、人口増加はありえない。その前提として人材の育成、教育、町で産業を育成できなければ外部の人材に委託し、金を出す。とにかく、集中し結果を出すこと。
- ・ 若い人の仕事する会社
- ・ 思い切った対策として、小中学校にかかる経費、給食費等を無料にする。
- ・ 講演とかは必ず参加してお話を聞かせてもらいますが、なかなか難しいと思います。自分達の子供でも、もしUターンして来ても収入の問題が一番先に来ます。仕事があっても収入が都会で働いていた時の差が大きいのにショックを受けているケースも耳に入ってきます。住む家がない方には、空き家を無料で貸すとか目玉になるものを出してほしい。受け入れる住民の方々も親しみを持って接して理解してもらおう様にと 생각합니다。やる気のある方は、活発に前へ出てきますので、「今来たばかりのくせに」とか言わないでほしい。ちなみに私が言われた一人です。参考のために…。
- ・ 行政や社協等で色々取り組んでいる様子を嬉しく思っています。・ホテルゆとりあでのお客の接待、料理等、客がまた来たいと思えるようなおもてなしの心、気配りが必要ではないか？従業員の研修等？・当町のおみやげが少ないので、木工品、羊の毛を使った加工品、ストラップ、ブローチ等を作ってはどうでしょう？

卷末資料 ～調査票～

藤里町の人口減少やまちづくりに関するアンケートのお願い

町民のみなさま

町では、昨年度「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいます。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握するためにアンケート調査を実施します。趣旨をご理解いただき、同封のアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

藤里町長 佐々木 文明

記

【調査目的】 よりよい藤里町のまちづくりを実現するための「人口ビジョン及び総合戦略」の指標に基づく効果調査を行い、計画の推進を目指す。

【対象者】 藤里町に在住する町民 1500 人（無作為抽出）

【回収日・回収方法】 3 月 17 日（金）までに返信用封筒に入れて、ポストに投函ください。

【調査に関する問い合わせ】 藤里町 総務課 企画財政係
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴 8 番地
TEL : 0185-79-2111

以上

質問4 あなたは藤里町に愛着を感じますか？ひとつだけ選んでください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

3. まちづくりの現状の評価について

質問5 普段のおでかけ環境について、現在の藤里町の外出のしやすさに満足していますか？ひとつだけ選んでください。

- ①満足している ②やや満足している ③あまり満足していない
④満足していない ⑤どちらともいえない

質問6 普段の生活の中で、人手不足を感じることはありますか？あてはまるものに○をつけてください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

質問7 「①強く感じる、②まあまあ感じる」と回答した方にお聞きします。どの分野で人手不足を感じますか？ 特にあてはまるものを3つまで選んでください。

- ① 集落の行事を担ってくれる人
② 冠婚葬祭を手伝ってくれる人
③ 草刈りなどの地域の共同作業
④ 農作業をやってくれる人
⑤ 子どものお守りや見守りをする人
⑥ 学校の保護者役員や行事を担ってくれる人
⑦ 高齢者の見守りや日常生活を支援する人
⑧ 災害時に対応してくれる人
⑨ 何か困った時に、声をかけたら手伝ってくれる人
⑩ その他 ()

質問8 人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思いますか。

- ①積極的に受け入れたほうがいいと思う。
②積極的ではないが、やむを得ないと思う。
③外部からの受け入れは必要ないと思う。
④その他 ()

4. 情報の発信について

質問 9 普段、町のお知らせ・情報はどこから入手していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- ①町の広報
- ②回覧板
- ③町のホームページ
- ④町のフェイスブック
- ⑤人づて
- ⑥防災無線
- ⑦特に入手していない
- ⑧その他 ()

質問 10 地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」を知っていますか。また、1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」は知っていますか。

- ①知っているし、読んだことがある
- ②読んだことはないが知っている
- ③知らない
- ④その他 ()

質問 11 藤里町のまちづくりや人口増加に関する取り組みなどについて、ご意見やご感想をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。